



活荷重の取扱いの変更に伴う標準設計の取扱いについて（通知）

技術基準の種類：設計・施工
通知日：平成 8 年 9 月 2 0 日

管第 4 5 5 号
平成 8 年 9 月 2 0 日

部内各課・室長様
各土木事務所長様
鳥取港湾事務所長様

土木部長

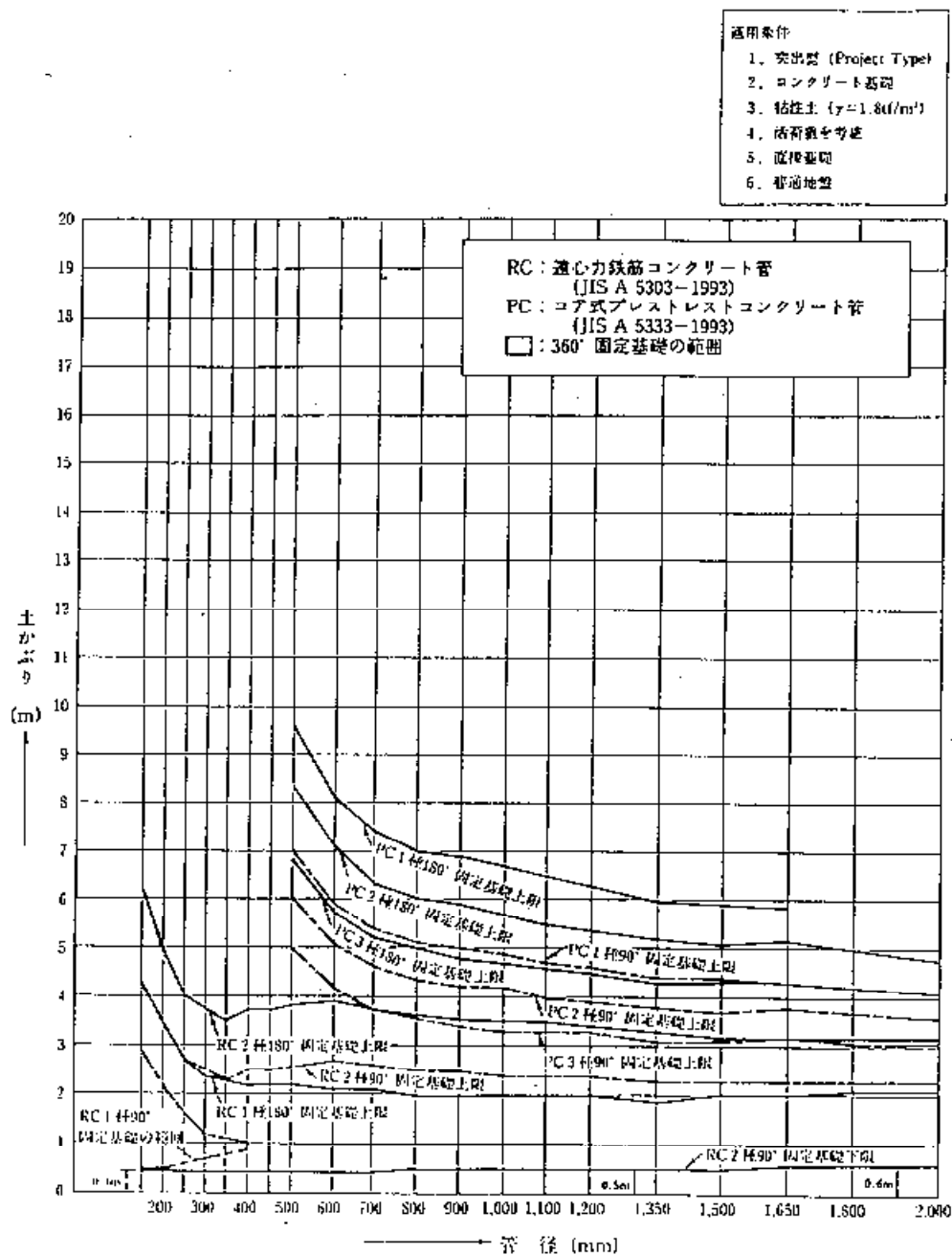
活荷重の取扱いの変更に伴う標準設計の取扱いについて（通知）

このことについては、平成 6 年 8 月 5 日付受管第 2 9 3 号で通知しているところですが、下記について取扱いを変更し、平成 8 年 1 0 月 1 日起工決裁する工事から適用することとしたので、貴課・室職員及び貴事務所職員へお知らせください。
なお、その他の取扱いは変更のないことを申し添えます。

記

- 1 パイプカルバートの基礎選定図
(1) 活荷重を考慮する場合は、当面別紙選定図を参考にするものとする。
(2) 活荷重を考慮しない場合は、平成 6 年 8 月の部長通知のとおり。
- 2 土木構造物である U 型側溝の側溝ぶたのうち、場所打方式による 0 1 - U S - 0 5 の C 2 - B 5 0 0 を製作する場合は、標準設計は適用できない。
ただし、主鉄筋の本数を 1 本増加する方法をとることにより適用できるものとする。

活荷重改正に対応した
パイプカルバート
基礎選定図

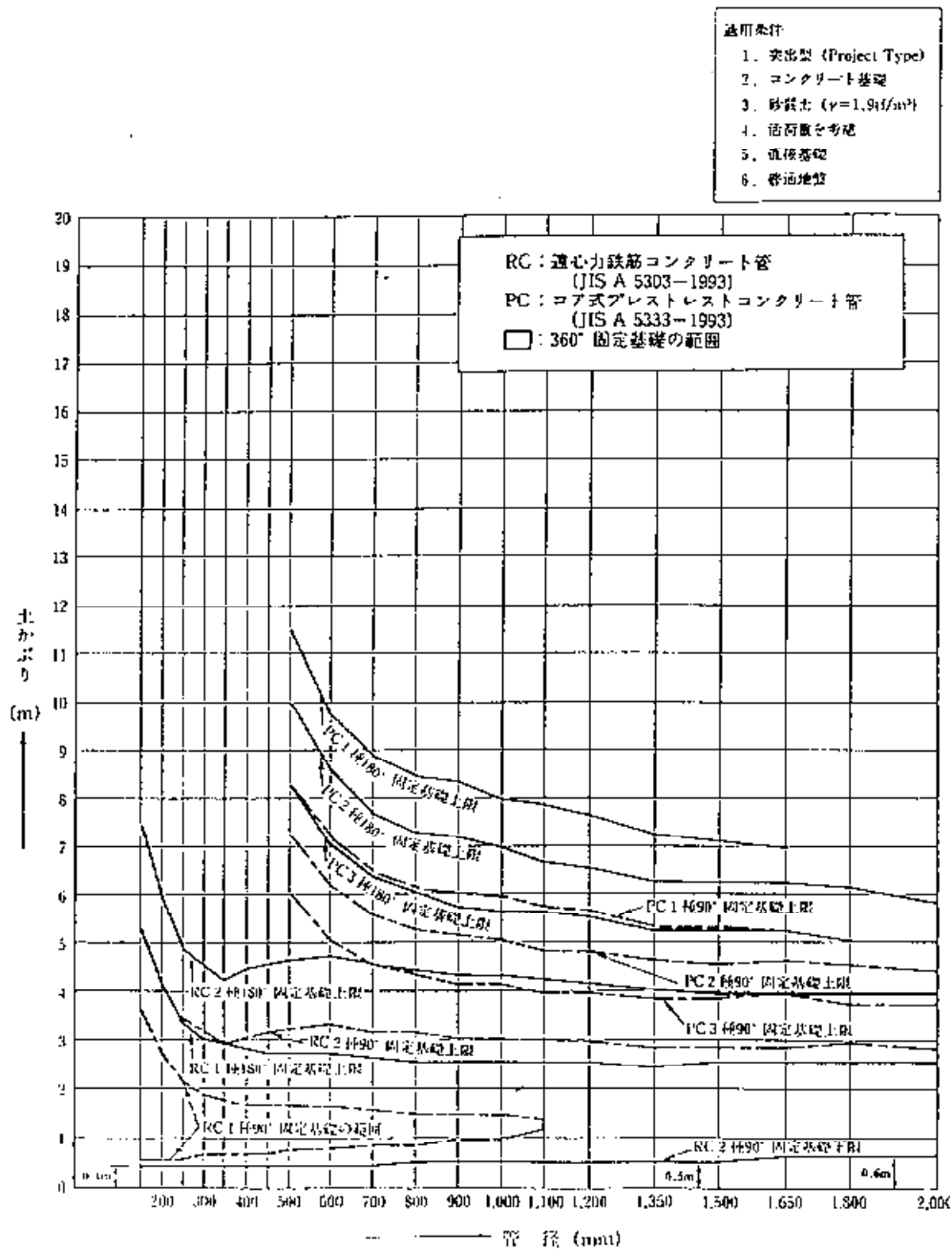


普通地盤に対するパイプカルバート基礎形式選定図

(突出型: コンクリート基礎, 粘性土)

普通地盤に対するパイプカルバート基礎形式選定図

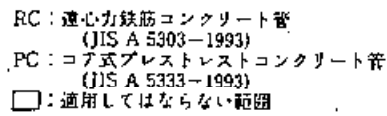
(突出型: コンクリート基礎, 粘性土)



普通地盤に対するパイプカルバート基礎形式選定図
(突出型: コンクリート基礎, 砂質土)

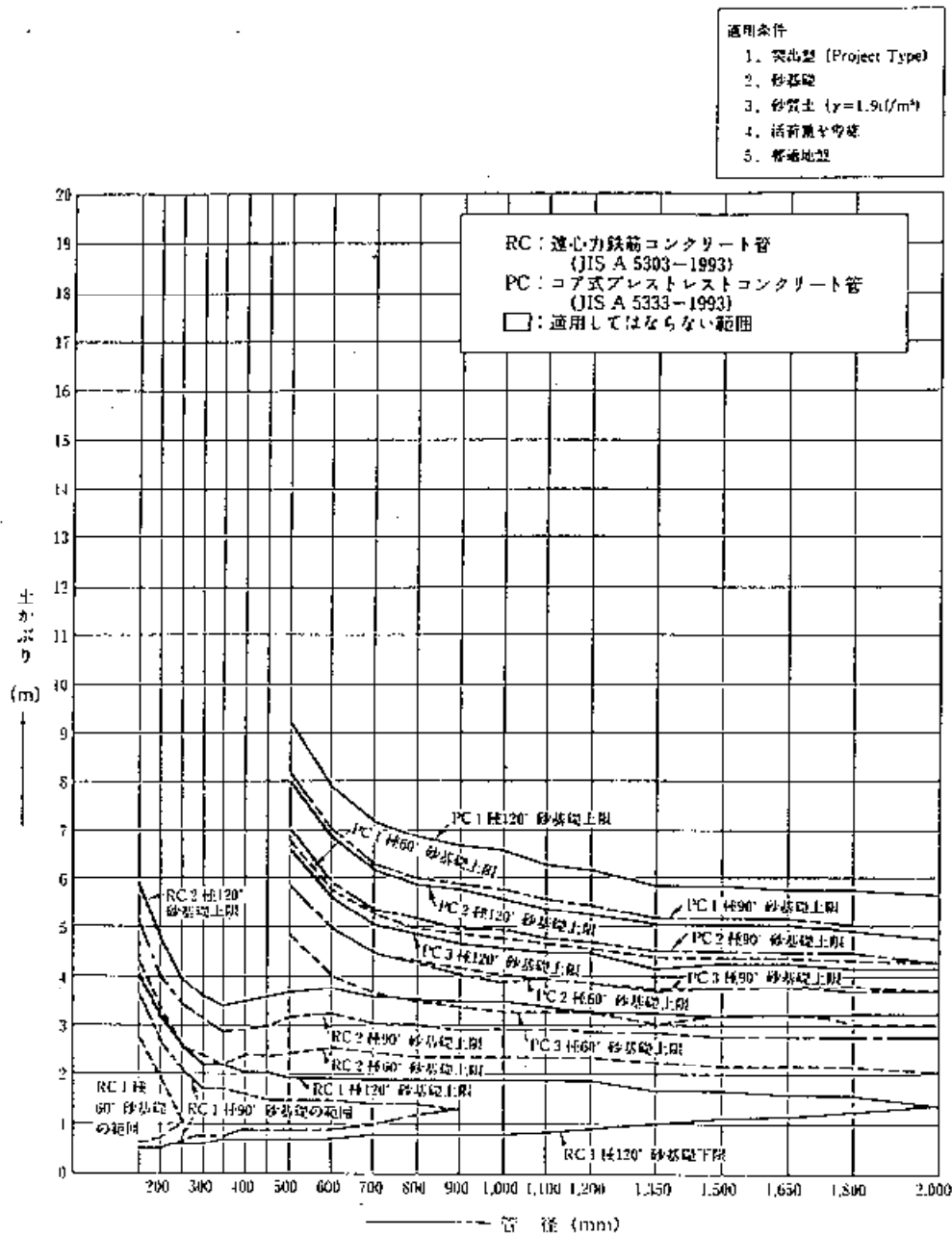
普通地盤に対するパイプカルバート基礎形式選定図
(突出型: コンクリート基礎, 砂質土)

- 通用条件



普通地盤に対するパイプカルバート基礎形式選定図
(突出型：砂基礎、粘性土）

普通地盤に対するパイプカルバート基礎形式選定図
(突出型：砂基礎・粘性土)



普通地盤に対するパイプカルバート基礎形式選定図

(突出型: 砂基礎, 砂質土)

普通地盤に対するパイプカルバート基礎形式選定図

(突出型: 砂基礎, 砂質土)

適用条件

1. 溝型 (Ditch Type)

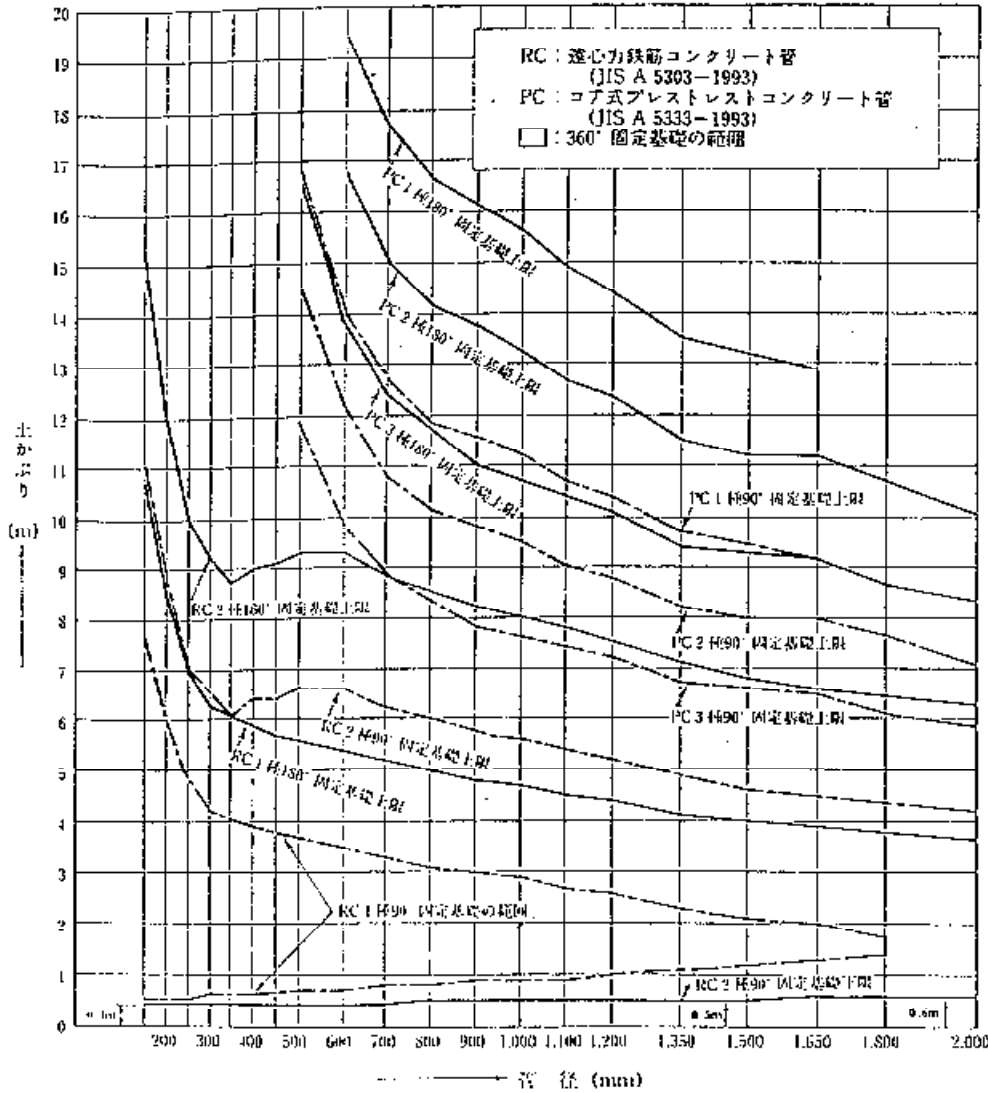
2. コンクリート基礎

3. $\gamma = 1.8 \text{ t/m}^3$

※ 例を $\gamma = 1.8 \text{ t/m}^3$ とし (y) の条件に無い場合は、 $\gamma = 1.8$ で換算する

4. 活荷重を考慮

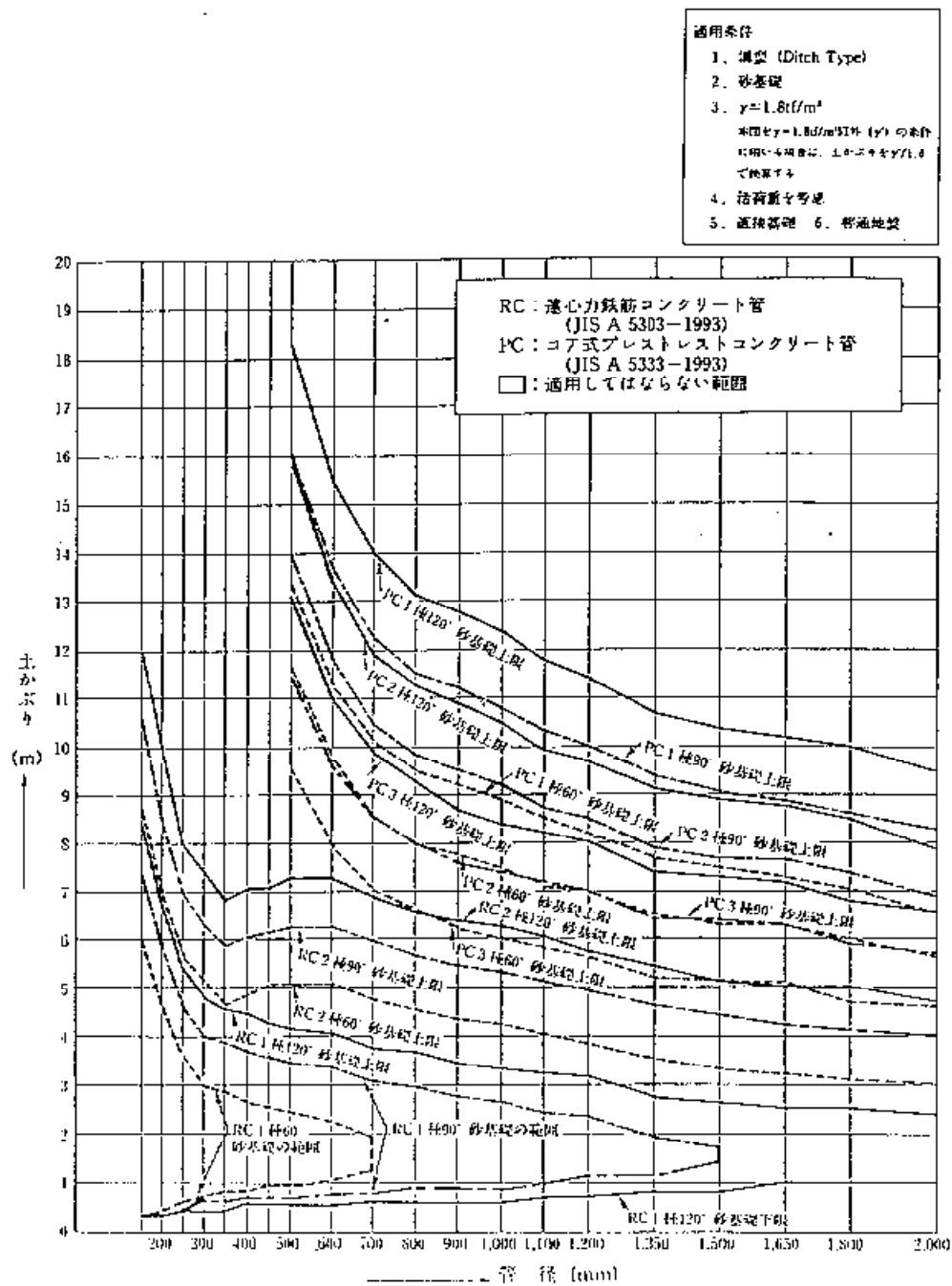
5. 直埋基礎 6. 普通地盤



普通地盤に対するパイプカルバート基礎形式選定図

[溝型: コンクリート基礎, $\gamma = 1.8 \text{ t/m}^3$]

普通地盤に対するパイプカルバート基礎形式選定図
 (溝型: コンクリート基礎, $\gamma = 1.8 \text{ t/m}^3$)



普通地盤に対するパイプカルバート基礎形式選定図
 (溝型 : 砂基礎, $\gamma = 1.8 \text{ tf/m}^3$)

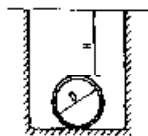
普通地盤に対するパイプカルバート基礎形式選定図
 (溝型 : 砂基礎, $\gamma = 1.8 \text{ tf/m}^3$)

参考

平成6年8月5日付管第293号(土木部長通知)

パイプカルバート基礎形式選定図(溝型の場合)
適用条件

1. 溝型(Ditch type)



2. コンクリート基礎

3. 普通地盤

4. それぞれの上限値, 下限値に入らないものは360°固定基礎とする。

使用方法

1. 設計条件としては次に示すものとする。

(1) 埋設形式(Ditch型)

(2) 土質

(3) 活荷重の有無

(4) 管種: 遠心力鉄筋コンクリート管

(JISA5303-1985)...1種・2種

コア式プレストレストコンクリート管

(JISA5333-1983)...1種・2種・3種

(5) 管径: D(mm)

(6) 土かぶり: H(m)

2. 管径と土かぶりの交点を見出せばよい。

例) 砂質土、活荷重を考慮、管径1000mm、土かぶり3mの場合、図-6.12

(印)により次のように検策できる。

○RC-1種に対して180°固定基礎

○RC-2種に対して90°固定基礎

○PC-3種に対して90°固定基礎

したがって、経済性を検討の上基礎形式を決定すればよい。

注意事項

1. 標準設計における360°固定基礎は管径D=1000mm以下について集録してある。

したがって、現地の条件によって管径D=1000mmを越え360°固定基礎としなければならない場合はコンクリート巻厚及び配筋については別途検討するものとする。

2. 土かぶりの少ない施工時においては、活荷重の衝撃が予想以上に大きくなる場合も考えられるので、管内に支保工等を設けるのがよい。

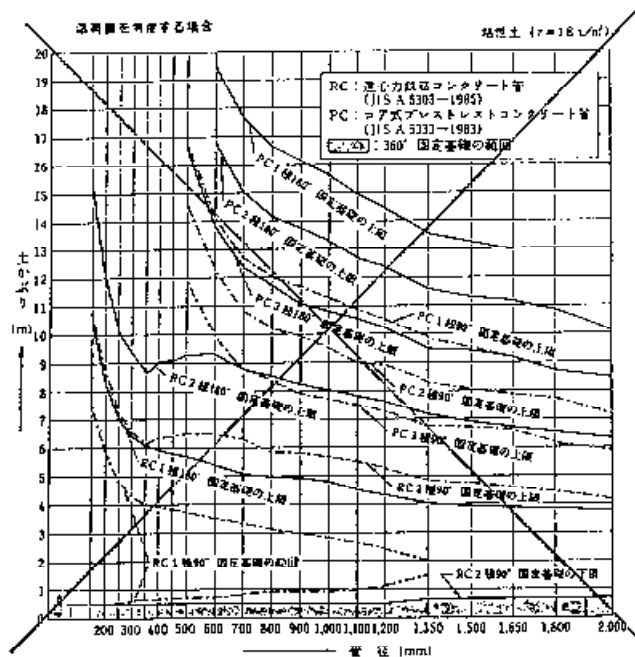


図 1 a

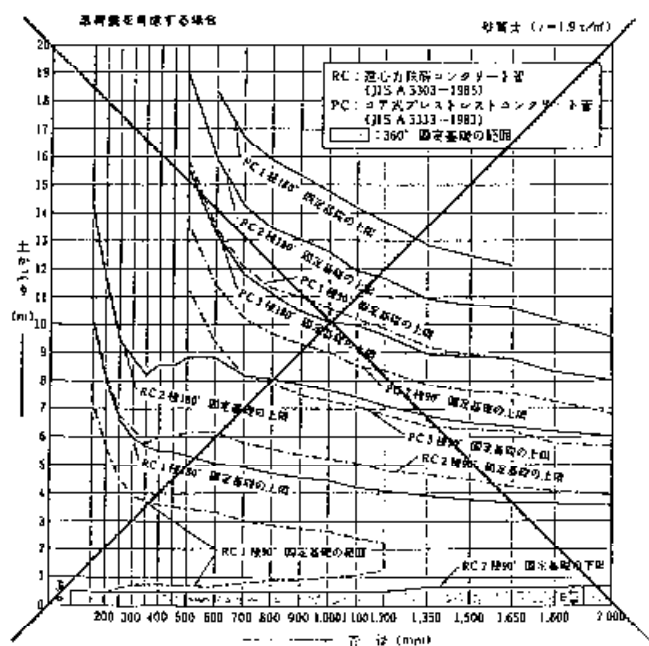


図 1 b

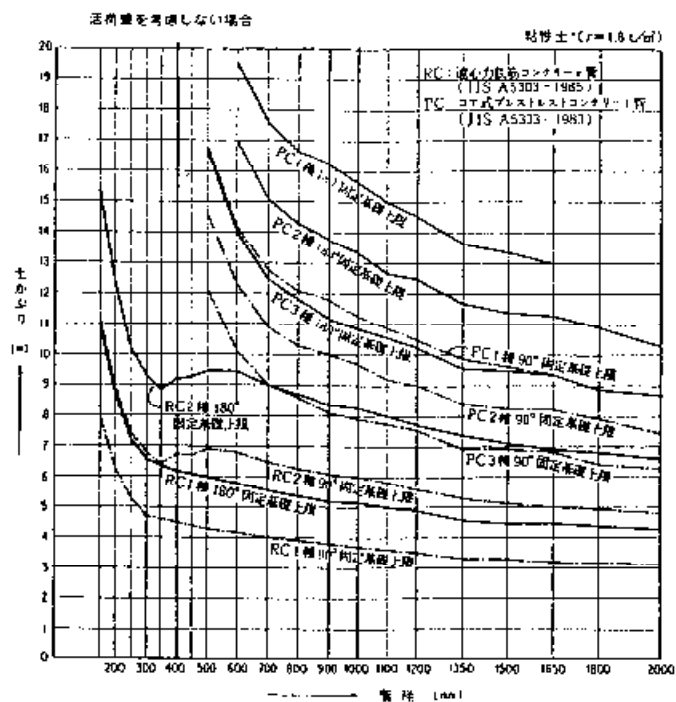


図 - c

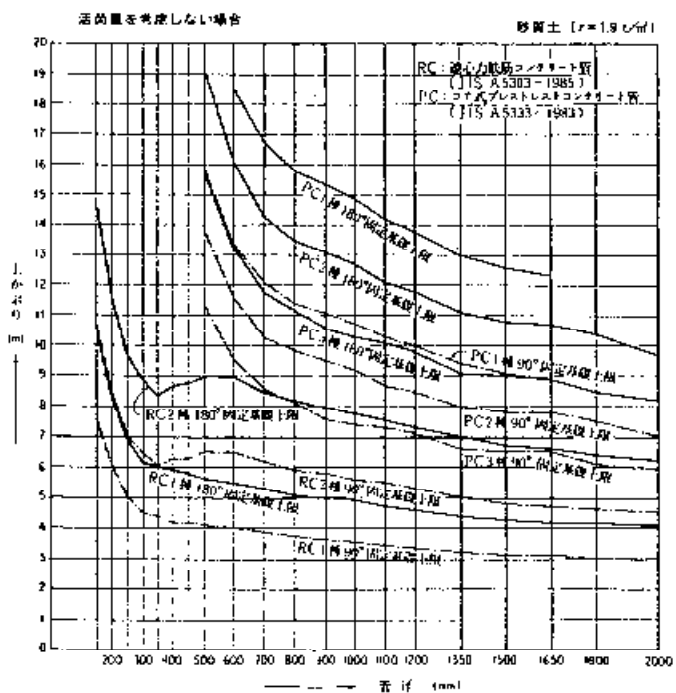
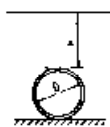


図 - d

パイプカルバート基礎形式選定図（突出型の場合）

適用条件

1. 突出型（Project type）



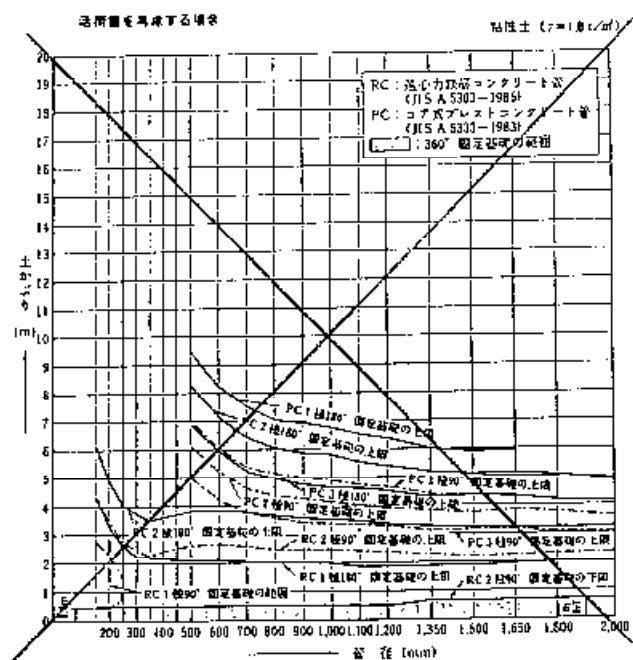
2. コンクリート基礎
3. 普通地盤
4. それぞれの上限値，下限値に入らないものは360°固定基礎とする。

使用方法

1. 設計条件としては次に示すものとする。
 - (1) 埋設形式（Project型）
 - (2) 土質
 - (3) 活荷重の有無
 - (4) 管種：遠心力鉄筋コンクリート管
 (JISA 5303-1985) ... 1種・2種
 コア式プレストレストコンクリート管
 (JISA 5333-1983) ... 1種・2種・3種
 - (5) 管径：D (mm)
 - (6) 土かぶり：H (m)
2. 管径と土かぶりの交点を見出せばよい。
 例) 砂質土、活荷重を考慮、管径1000mm、土かぶり3.5mの場合、図-6.16
 (印)により次のように検索できる。
 - RC - 2種に対して180°固定基礎
 - PC - 3種に対して90°固定基礎
 したがって、経済性を検討の上基礎形式を決定すればよい。

注意事項

1. 標準設計における360°固定基礎は管径D = 1000mm以下について集録してある。
 したがって、現地の条件によって管径D = 1000mmを越え360°固定基礎としなければならない場合は、コンクリート巻厚及び配筋については別途検討するものとする。
2. 土かぶりの少ない施工時においては、活荷重の衝撃が予想以上に大きくなる場合も考えられるので、管内に支保工等を設けるのがよい。



砂質土 ($\gamma = 1.9 \text{ t/m}^3$)

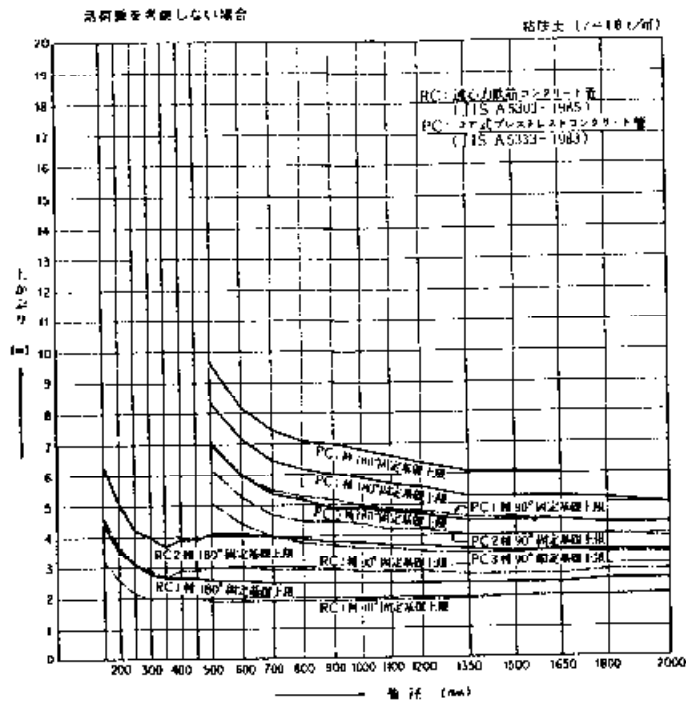


図 - g

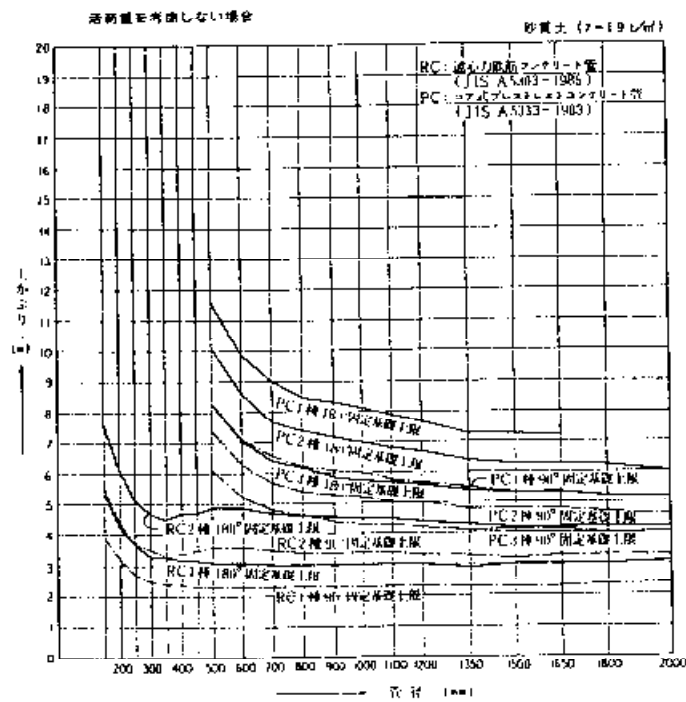
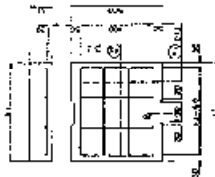
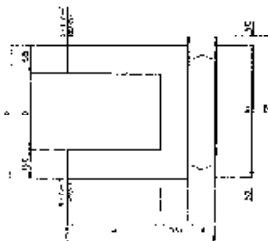
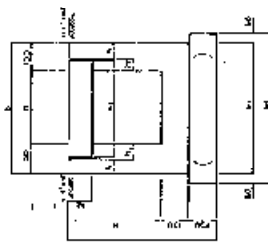


図 - h

「二うー世界を打ちひしげに」

$$x_A = 66.5\%$$


3型(場子)の型数: (324) 方法: 材料: 要

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	

岳陽府志卷之十一

[illegible]

144頁(通称:「U型鋼」)に於ては付与寸法とよび別列取

[illegible]

11. 11. 11.

- このように、 $\mathcal{H}_1$ と $\mathcal{H}_2$ の両方に属するベクトルは、 $\mathcal{H}_1$ と $\mathcal{H}_2$ の両方に属するベクトルである。このように、 $\mathcal{H}_1$ と $\mathcal{H}_2$ の両方に属するベクトルは、 $\mathcal{H}_1$ と $\mathcal{H}_2$ の両方に属するベクトルである。